日本医史学雑誌 第四十一巻第三号 目次

原著

海軍大医監 奥山虎炳（一八四〇―一九二六）……深瀬 泰旦……三二

初代曲直瀬道三の癩医学……鈴木 則子……三四九

研究ノート

西洋、中国、日本のジフテリア史素描……中村 昭……三六九

『紅毛医術聞書』にみる合田大介のカンケル論……長与 健夫……三九五

資料

十七世紀の平戸・出島蘭館の医薬関係者について……ヴォルフガング・ミヒェル……四〇三

記事

消息

海外関連学会との交流……真柳 誠……四一

近藤均氏《紹介》『ヴェサリウス著：人体構造論抄：中原訳』（本誌四〇巻第四号）に寄せて……永田 和弘……四三

永富獨嘯庵二三〇回忌追善祭（報告）……岡村 芳樹……四三

日本医史学会関西支部一九九五（平成七）年春季大会……長門谷洋治……四四

例会抄録

憑きもの再論……岡田 靖雄……四五

帝国大学医学部歯科の軌跡……榊原悠紀田郎……四六

漢代の解剖学……家本 誠一……四八

ロンドン病院博物館報告……山根 信子……四三〇

永富独嘯庵（漫遊雑記）にみる神経症概念について……小曽戸明子……四三

箕作阮甫『産科簡明』と原著者及び原著について……石原　力……四三三
三人の玄良と一人の虎章―海軍大軍医奥山虎章……深瀬　泰旦……四三六
我国医学界初のX線実験臨床講義者・丸茂文良……唐沢　信安……四三七
紹　介
酒井忠夫・今井宇三郎・吉元昭治編『中国の霊籤・薬籤集成』を読んで……難波　恒雄……四三九
福田真人著『結核の文化史』……藤倉　一郎……四四〇
長谷川正康著『噛む―歯は生命』……谷津　三雄……四四二
神農五千年刊行委員会編『神農五千年』……猪飼　祥夫……四四三
寺師睦宗著『漢方を築いた先哲』……小曽戸　洋……四四四
医史学文献目録　平成五（一九九三）年……順天堂大学医史学研究室編……四四九

≪本号の表紙絵≫

観相学の科学性を追究した
Giovanni Battista della Porta (1535/40-1615)

ルネサンス期の人物にふさわしく、Portaの活躍の領域はひろい範囲にわたっていた。いわく古典学者、内科医、眼科医、神秘学者、観相学者、錬金術師、物理学者、博物学者、自然魔術の研究者等々。

ヒトの外表にあらわれた肉体的特徴と、内面的な性格との間には一定の関係があるとPortaは主張し(*De humana physiognomonia,* 1586)、さらにこれをいろいろな動物と比較対比して、ヒトの性質がその容貌のにた動物の性質と類似点をもっているとした。

かれの肖像画を中心にして、右側にはヒトの容貌、左側にはそれに類似した動物をかかげて、自らの説の正しさを主張している。本図はさきのラテン語初版本のイタリア語訳*Della Fisionomia dell' Hvomo,* (1644)にのる図である。

Portaは世界最初の学会Academia dei Lineiの五番目の会員であり、観相学の創立者としてしられている。

またレンズの研究にすぐれており、*Magiae naturalis* (1558)で望遠鏡の可能性についてのべているので、Johannes Keplerはあやまってかれを望遠鏡の真の考案者だとしている。

(深瀬泰旦)